

1月・2月の管理ポイント

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第103号



明けましておめでとうございます。

昨年は、**抗ストレス剤『レボ』**、**ベンゼンジカルボキサミド系殺虫剤『スティンガーフロアブル』**をはじめ、弊社推進商品を多くのゴルフ場の皆様に、ご利用頂きまして、誠にありがとうございました。

大好評でございました『スティンガーフロアブル』も樹木に対して農薬登録が取れましたので、今年ますます幅広くご利用して頂けると思います(対象害虫；ケムシ類：アメリカシロヒトリ、イラガ、ドクガetc、残効期間；2ヶ月以上)。

本号は年初めということもありますので、いつもの管理ポイントはお休みにして『スティンガーフロアブル』の樹木関係の防除時期の推奨例および残効性について紹介します。

スティンガーフロアブルの防除時期の推奨例

5月	6月	7月	8月	9月	10月
発生時期 チャドクガ等ドクガ類 イラガ等イラガ類 マイマイガ(1化性春のみ) オビカレハ(1化性春のみ)			発生時期 アメリカシロヒトリ モンクロシャチホコ(1化性夏秋のみ) チャドクガ クワゴマダラヒトリ(1化性秋のみ)		
従来散布			従来散布		
スティンガー		→	長期残効 散布回数省力		→ 落葉防止

※害虫の発生期間や効果持続期間は、環境要因や処理条件等により変動します。

スティンガーフロアブルの残効性の確認

(株)トモグリーン・ケミカル研究センター)



放飼直後



2日目



4日目



7日目

サンゴジュにスティンガーフロアブル8000倍、対照A剤1000倍で散布し、**2ヶ月後**に各樹木から採集した生葉を、イラガ幼虫に摂食させ、各薬剤の残効を確認した。

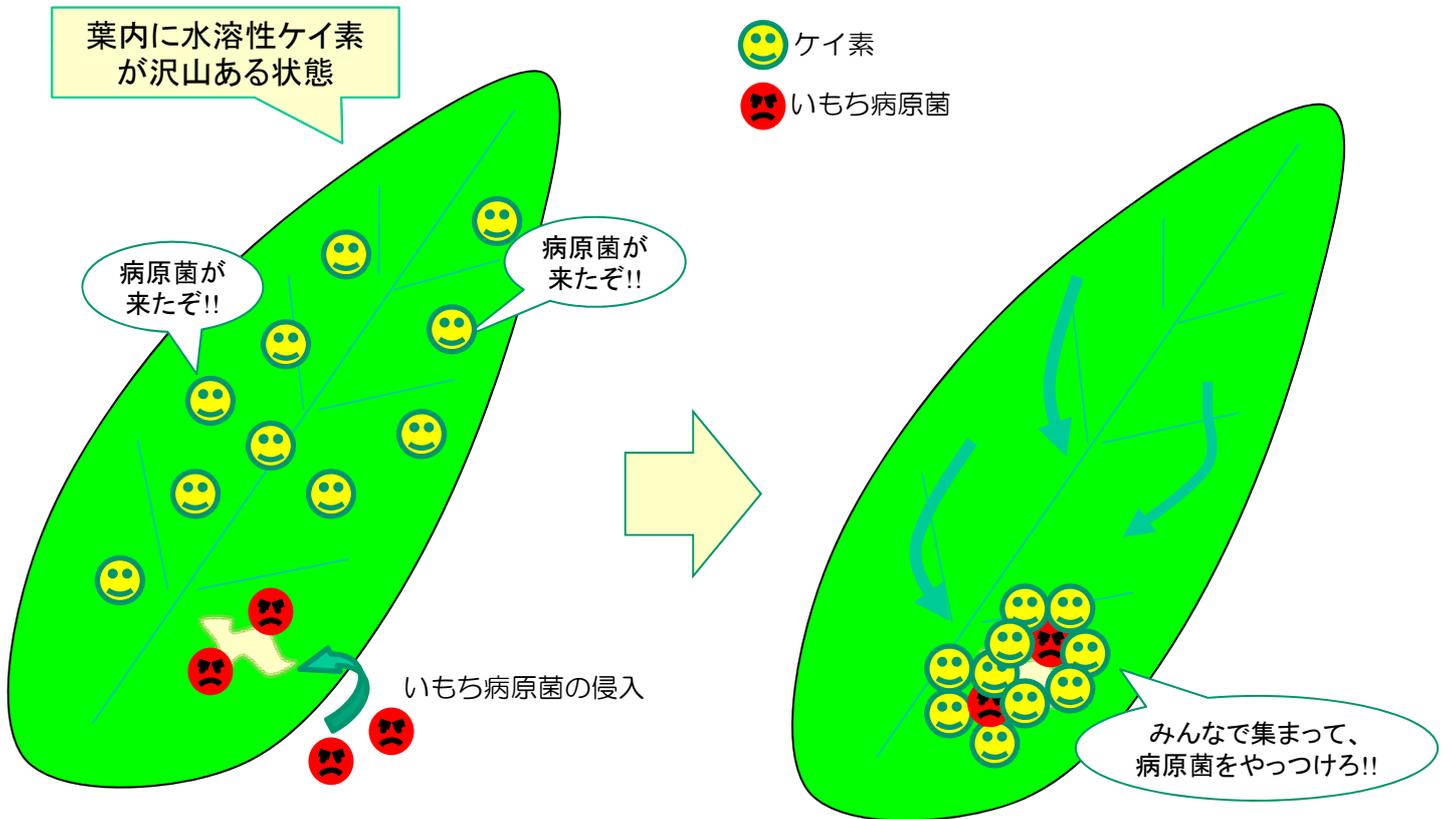
結果：散布2ヶ月間で523mmの降雨があったにもかかわらず、スティンガーフロアブル散布区の葉はほとんど食害を受けておらず長期の残効性が確認され、散布回数が省力化されることが示唆された。

全身獲得抵抗性(SAR)とは？

ミネラルで病気を軽減できるのか？ その2

前号では、植物は、植物体内で病害抵抗性を発現させ、自ら病害から身を守る働きがあることを紹介しましたが、本号では、稲のいもち病を例に挙げ、その働きを活性化させるケイ素の働きについて紹介いたします。

ケイ素を施用してあるイネ



病原菌が侵入してくると、ケイ素を施用したイネでは「病原菌が来たぞ」という感染時の認識シグナルが大きく増幅されます。

病原菌が侵入した細胞部位にケイ素が集積し、菌の侵入を阻止しています。

「作物の栄養生理最前線」 渡辺 和彦著より参照

一般的には、ケイ酸を散布するとカルシウムの吸収を促して、カルシウムとともに細胞壁を強固にして病原菌の侵入を防ぐ働きがあるといわれてきましたが、今回のように病原菌に集積し病害を防ぐ働きもあります。しかし、ケイ酸は一般的には水に溶けにくい性質を持っているので、吸収させることが難しく、如何に植物に吸わせることが重要となってきます。